

ほのか診察室



シリーズ

第135話

認知症について



市民病院
外来診療課看護師
おかだともみ
岡田 智美
認知症看護認定看護師

高齢になるにつれて

認知症になる可能性は高まります

団塊の世代のすべての方が75歳以上となる2025年には、わが国の認知症患者は700万人に達し、約5人に1人が認知症を患うと推計されています。(内閣府「高齢社会白書より」)

さらに、高齢化率は全国で約30%、市で38%に達すると推計されており、高齢化がより一層進み、今後の高齢化に比例して、さらに認知症患者が増加すると予測されています。

加齢によるもの忘れと認知症の違い

加齢によるもの忘れは歳を重ねると誰でも起こります。しかし、認知

症は脳の病的な変化で起こるものです。

加齢による「もの忘れ」は、脳の生理的な老化が原因で起こり、軽度なヒントがあれば思い出すことができます。また本人に自覚があり、日常生活に支障をきたすことはありません。

一方、認知症による「もの忘れ」は、物事全体がすっぽりと抜け落ち、ヒントがあっても思い出すことが難しいです。また本人の自覚がないことが多く、徐々に進行し、日常生活に支障が出てきます。

認知症の症状

認知症の種類は70種類にもおよび、症状の多くは「もの忘れ」です。「もの忘れ」は徐々に進行するため、

今までできていたことができなくなる、思うように会話ができないなど、判断して行動することが難しくなっていくます。このように、少しずつできないことが増え、生活に不自由さを感じていきます。

また症状の中には、認知症に似た疾患や治療可能なものもあるため、気になる症状があれば早めの受診をお勧めします。

認知症があっても

安心して暮らす

認知症になると、必ずしも毎日が辛くて苦しい日々になるわけではありません。家族の方、地域の方、医療職や介護職の関わりで穏やかに暮らしている方も大勢いらつしやいます。

認知症の方は、今まで生きてきた過程をすぐにすべて忘れてしまいうわけではなく、安心できる環境や周囲の人々の支援で、その人らしく暮らすことができます。また、これらを実現できるような国や自治体の施策があ

年齢相応のもの忘れと病的なもの忘れの違い

	年齢相応のもの忘れ	病的なもの忘れ
記憶の障害範囲	出来事の一部	出来事全体
記憶の復活	きっかけがあると 忘れた内容を思い出す事がある	忘れた内容は思い出せない
進行性	なし	少なくとも年単位では悪化
日常生活の障害	なし	あり
もの忘れ以外の症状	なし	次第に加わってくる
もの忘れに対する自覚の有無	あり	ないことが多い

出典：公益社団法人日本看護協会 認知症ケアガイドブック 2016.6月

最後に

認知症になっても感情面は衰えないため、楽しい、嬉しい、悲しい、苦しいなどの感情は保たれています。認知症だからと特別視をせず、その方の持っている力を最大限に生かして、手伝いが必要な部分は手伝うことで、かけがえのない人生が送れるようになります。

認知症の症状や家族の介護などの心配ごとや困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。